

令和4年度幸福について考えるワークショップの意見等について

1 目的

いわて県民計画（2019～2028）は、県民の幸福を守り育てることを基本目標としていることから、いわて県民計画の推進に向け、県民に「幸福」について考える機会を提供するとともに、ワークショップを通じて県民の幸福感に関する意識を把握し、政策評価等に活用することを目的とする。

2 対象とした分野別実感

- ① 地域社会とのつながり
- ② 必要な収入や所得

3 ワークショップの開催状況

ワークショップ開催状況は以下のとおりであり、主な意見等については別紙のとおり取りまとめた。

○ワークショップの開催状況

	開催日	開催地域	参集者	
			人数	備考
第1回	6月7日	県南 (遠野市)	19名 (男性10名、 女性9名)	農業者、宿泊施設運営者、サービス業経営者 等
第2回	6月28日	県北 (軽米町)	12名 (男性7名、 女性5名)	商店経営者、団体職員、NPO関係者、専業主婦 等
第3回	6月29日	県央 (雫石町)	7名 (男性3名、 女性4名)	移住者（自営）、NPO関係者、専業主婦、移住コーディネーター 等
第4回	7月6日	沿岸 (釜石市)	6名 (男性4名、 女性2名)	自営業者、会社員、団体職員、公務員 等
第5回	7月8日	沿岸 (大船渡市)	10名 (男性9名、 女性1名)	地域おこし協力隊、会社員、フリーランス 等
第6回	7月12日	沿岸 (宮古市)	10名 (男性0名、 女性10名)	商店街組合職員、専業主婦、公務員 等
第7回	7月23日	県央 (滝沢市)	13名 (男性3名、 女性10名)	自治会役員 等
第8回	7月23日	沿岸 (陸前高田市)	8名 (男性3名、 女性5名)	団体職員、移住者 等

○ワークショップにおいて出された意見等

①地域社会とのつながり		
	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第1回目 (遠野市)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントもあり、母数（地域の住民数）を考慮すると少なくなったとは感じていない。(60代:男性) ・調査の「地域」の捉え方（範囲）が違うのではないか。大きな地域ではなく身近な自治会等のつながりはある。(60代:女性) ・親世代はあった熱い（厚い）付き合いを若い世代で継続するのは難しい。生活様式の変化や働き方などの影響があると思う。(50代:女性) ・スマホ・オンラインの利活用が進んだと感じている。学校関係はLINEなど使っているので繋がり方とコミュニティの変化があるのではないか。(30代:女性) ・もともと若い世代の参加が減っている中で、新型コロナ感染防止を理由にできる気安さがあるのではないか？ (70代:男性) ・スマホ等の使い方がわからなく、できない人が取り残される。(60代:男性) ・会わなくてもよくなった。（「会う」機会と「会う」方法の選別が進んだ。）(40代:男性) ・行政主催の行事等は感染防止のための中止が相次いたが、地域主体の行事は外での活動を中心に実施しているので、行事自体がスリム化したためか、参加する人が増えている。(70代:男性) ・葬儀の規模が小さくなった。無駄というのはないが、必要以上のしがらみが減るので、今後もこのまま小規模のまま変わらないのではないか。正直、楽ではある。(60代:女性) ・移動困難の高齢者が増えている。自分の免許返納後の未来が不安。買い物難民になってしまうことを心配している。(70代:女性) ・隣近所とのつながりはできていると思うが・・・。仕事の都合上、地域活動への参加が難しいところもあって、親世代のような関わりはできない。(40代:男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地道な声かけは大事。(50代・女性) ・社会の変化に合わせてこちらも工夫していかなければ行けない。どうしたものか・・・(60代:男性) ・SNSなど使い方を学ぶ機会をもつ。(60代:女性) ・移動販売などの仕掛けや移動支援について地域で考えていく。(50代:男性) ・車や自動運転の技術開発が望まれる。(70代:女性) ・地域資源を改めて見直すことから始めよう。(70代:男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第2回目（軽米町）	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減による担い手不足に加えて地域の仕事が複雑化して、積極的に参加する気になれない。不要だと思ふことも多い。(40代:男性) ・子育て重視で生活している。学校行事や習い事などに対応していると、地域コミュニティと関わるのが難しい。(30代:女性) ・若者が消防団に加入してすぐに辞めていく。原因は、多様な生活か？組織の体質か？(50代:男性) ・コロナ拡大とかで集まる機会が減ったが、それに慣れてきている。(40代:女性) ・コロナ拡大後に戻ってきたばかりでよくわからない。これからつながっていく。(20代:男性) ・特に減った感じはしない。小さな集落なので、気に掛け合いながら生活している。(60代:女性) ・地域の同世代と出会う場、つながる機会が少ない。(40代:男性) ・地域活動などは親が参加しているので、自分はいいかなって思っている。(30代:女性) ・誰かの負担の上で成り立っている地域活動。若者がいないのではなく、若者の生活スタイルなどの変化に対応できていないのではないか。(50代:男性) ・地域というか中学校の同級生と一緒に進学したくなる学校がいいなって思う。(10代:男性) ・行政区が広い。高齢者が増えて、自然と交流する機会が減っている。(50代:男性) ・全体的には減っているかもしれないが、必要などころとはつながっている。(30代:女性) ・義務感があると参加がためらわれる。(40代:女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場など継続的に取り組める場をつくっていくことが大事。(40代・男性) ・昔ながらのやり方を見直していく。(40代:女性) ・地域の資源・宝をもっと活用する。そのためにはやっぱり話す場づくりか？(40代:男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第3回目（栗石町）	<ul style="list-style-type: none"> ・となり近所と付き合いはない。距離感を選択しているもの。(60代：女性) ・かわる機会はあるが、それぞれが「幸せ」を感じるのであれば、(かわらなくても) それでいいのではないか。(30代：女性) ・紫波町は住みやすいし面白いと感じている。(20代：女性) ・町内に話す人（相手）がいなかったが、「きっかけ」があり変わった。(60代：女性) ・震災後、(活動のすばらしさを見て) 遠野に移住を考えた。(60代：女性) ・地域に期待度が高過ぎたかもしれない。(30代：女性) ・つながりたいと思ってくれる人とつながりたい。(30代：女性) ・地域を知らない、地域でしていることを地域で共有できていない。(20代：女性) ・「つながる」必要がなくなった。ネットで対応可能である。(40代：男性) ・最低限、維持はできている。(40代：男性) ・回覧板など必要最低限のことは継続されている。(40代：男性) ・もともとこの地域の人でなくても、仲良くしていなくても、役割は果たすべきである。(30代：男性) ・つて、世話をしてくれる人がいる。(40代：男性) ・まちの規模が大き過ぎるとどういう人がいるのかもわからず、関わることに不安を感じる。(40代：男性) ・かわることに苦心しなくていい。(40代：男性) ・「つながり」が美德というイメージは「昭和」的。(40代：男性) ・背景、風土、ことばの違う人は地域に溶け込むのが大変である。(30代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは近すぎない距離感をもちたい(30代・女性) ・ゴミ捨て場のルールや清掃、町内会の班長などはしなければならぬものと思っている。(40代：男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第4回目（釜石市）	<ul style="list-style-type: none"> ・同年代では集まっているが、固定化している。（20代：女性） ・地域社会とつながるきっかけがない。（20代：女性） ・新しいつながりを持つ必要はないと考えている人もいる。（30代：女性） ・地域に関わってきた家庭で育ってきたので、地域に関わるのは当たり前なので関わっている。そういう環境がなかった人は、特に関わりたいと思っていないのではないかと。（30代：男性） ・住んでいる地域の町内会活動は機能していると思う。そんな中、コロナ禍の影響か、見知った高齢者の顔が見えない（バス停にいないとか）と心配になる。（30代：女性） ・転勤族なので、ほどほどに付き合っていく。（50代：男性） ・仕事柄関わらなければいけないが、それが休日までになると大変。バランスが難しい。（30代：男性） ・知り合う、地域の人々の顔を知ることが安心につながる。（30代：女性） ・年配の方は地域との関わりを重視している。でも今の若い世代にとってはわずらわしさや面倒臭さがあるのではないかと。（30代：男性） ・感染症拡大防止をきっかけに、付き合い方が変わってきた。現状で満足している。（50代：男性） ・関わると仲間ができる。仲間を集めるための声かけのタイミングなどはかっている（30代：男性） ・地縁にこだわらない生き方をしている人と従来の生き方をしている人の接点がないかもしれない（50代：男性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・何かしら繋がりが必要と思う。（30代・男性） ・子ども達が、地域のことを学ぶ機会は大事。イベントなど企画していきたい。（30代：女性） ・自分の得意（演劇）を生かして、自己表現力を身につける機会を提供したい。（30代：女性） ・家庭内のことを整理していく必要がある。（30代：男性）

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第5回目（大船渡市）	<ul style="list-style-type: none"> ・友達やネットを通じた繋がりがあるので特に困っていない。(20代：女性) ・4月に移住してきたが、ご近所付き合いが煩わしいと感じる。詮索されるのが嫌。(20代：女性) ・仕事柄、地域の活動などには時間が合わない。(20代：男性) ・高齢者が多い地域。自分から会いに行くようにして、繋がりを持つようにしている。(20代：男性) ・地域コミュニティでのつながり方は時代に合わないのではないかと。若い人が関わらない理由の1つだと思う。(20代：男性) ・祭りなど大きな行事には顔を出すようにしている。今は、地域の集まりも少ない。(20代：男性) ・地域とつながってなくても幸せそうな人が増えた気がする。(30代：男性) ・なんとなく、個性の尊重が少ない気がしている。(30代：男性) ・積極的に繋がりたい人が減っているのではないかと。(20代：男性) ・町中に住んでいる。つながってなくても幸せそうに見える。(20代：男性) ・生活スタイルを選択できる。しかし、地域の歴史とかそういったことを知る機会が少ないのできっかけがないのかもしれない。(20代：男性) ・地域社会ってなんだろう？ 子育てなど考えても社会環境の不安がある。だから、どうしても仲間とつながってほしいかなって思う。(20代：女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実は避難場所を知らない。避難訓練などがきっかけになるのではないかと。(20代：男性) ・協力隊として選んでの地。受け入れてもらえるように積極的に参加する。(20代：男性) ・自分の生き方があって働き方が変わる。しっかり考える。(20代：男性) ・少しでも周りの人の事を想像して、企画を仕掛けられるようにアンテナを高くする。(20代：女性) ・もっと地域を知る。そのために出かける。(30代：男性) ・回覧板等をIT化のお手伝いができる。(20代：男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第6回目（宮古市）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害公営住宅入居後、なかなか地域に馴染めず。その後、町内会が解散し、更に交流する機会がなくなった。（70代：女性） ・集合住宅が多い地域に住んでおり、普段から繋がりが希薄と感じる。回覧板も年1回しか回らず、地域の情報を得る機会がない。（40代：女性2名から） ・子育て中だが、実家に世話になっていて、「〇〇さん家のお孫さん」と地域で見守られる感じが嬉しいし、助かっている。（40代：女性） ・職場のある地域は、仕事柄繋がりを持てているが、住んでいる地域は活動がほとんどなくなった。震災後に住民が転居し減少したこと、その後台風被害が合ったことに加えてコロナの影響だと思う。（60代：女性） ・子供会が合併して巨大化し、自治会等と連携した行事運営が難しい面もある。（40代：女性） ・最近、Uターンで地元就職したばかりで、関わる機会がない。特に困ることもない。（20代：女性） ・（年数は経っても）被災者とそうでない人の壁があると感じている。（70代：女性） ・商店街は、空き店舗の増加や組合員を辞めるなど賑わいが不足している。（60代：女性） ・買い物する場所が減っているので出かけることが減っているかもしれない。（40代：女性） ・やはりコロナ不安がある。企画しにくい雰囲気がある。（40代：女性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・前にでて、自分から何かをすることは難しい。（70代：女性） ・ボランティア活動を通じて、もっと話を聞く機会を増やしていきたい。（60代：女性） ・賑わいが出るような、お楽しみ企画を考えていく。（60代：女性） ・自治会との話し合いをしながら、以前のようなイベントを復活させる。（40代：女性）

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第7回目（滝沢市）	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎暮らしに憧れて定年後に移住した。適度な距離感で暮らしやすい。(70代：男性) ・若い世代は忙しいし、生活スタイルも従来と変わってきている。(40代：女性) ・転居してきた当初は地域と繋がりが少なかったが、子供会などに参加するようになって地域の皆さんと知り合う機会が持てた。(30代：女性) ・子育てが終わると自治会役員にでもなっていないと、関わる機会は減る。(50代：女性) ・ここで生まれて今に至る。若いときは煩わしかったが、育成会を通じて地域と関わり、地域とつながることが大事だとわかった。見守られて子育てしている感じである。(40代：女性) ・引っ越して来た時、隣近所の皆さんの声かけが嬉しかった。(70代：女性) ・職場が遠方で通勤に時間がかかる。平日いない分休日は家のことをと思うと、なかなか地域の皆さんとの交流する時間がない。(40代：女性) ・妻と二人暮らし。雪かきなど困った時は近所に助けられている。(70代：男性) ・「小さな親切 大きなお世話」というか、若かった頃の付き合い方が通じないかも。(50代：女性) ・子育て世代を見ていると仕事や孫のイベントなどに追われている。別の仲間がいる感じがする。(70代：女性) ・コロナの第7波が心配。人と繋がり合える地域を目指している。(70代：男性) ・地域活動に参加する人、参加しない人の二極化が進んでいる。関わらないことが不利益ではないと考える人もいるかも知れない。(50代：女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・何かしら地域の役を引き受けてもらうために、日頃から声をかけあっていく。(40代・女性) ・高齢者対象、子育て世代対象など交流の場作りを積極的にしていく。(50代：女性) ・自治会がどんな活動をしているのか、積極的に広報する。(70代：男性) ・挨拶が飛び交う地域を目指していく。(70代：男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第8回目（陸前高田市）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・減ったという感覚はない。(20代：女性) ・コロナ禍で移住してきたので、近所づきあいや地域行事などつながる機会が少なかった。(20代：女性) ・都会に比べると人とつながりやすい規模だと思う。(20代：男性) ・移住者としては、受け入れてくれる温かさがある地域と感じる。人が温かい。(20代：女性) ・人とのつながりが強い。暮らしていく上で、人間関係を大事にしていれば何とかできることが多い。(20代：女性) ・自治会、町内会や祭りなどの行事参加は面倒くさい。一度参加すると常に参加し続けなければならなくなって、引き際がわからない。しんどい。(20代：男性) ・しがらみは確かに強い。地元の人同士だとよりそんな感じがすると思うが、移住者は割と抜けても許容される雰囲気を感じる。(20代：女性) ・(行事の参加を継続するか抜けるかの話について) 地元の別の町(地区)だと移住者への対応が違う。(20代：男性) ・地元の同級生とつながらないと情報を得る機会がない。でも、ちょっと面倒くさい。(20代：女性) ・嫁に来た人は、いかに女性社会に溶け込めるかが大事。(20代：女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが参加したいと思うような企画を考えたい(20代：女性)

②必要な収入や所得

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第1回目（遠野市）	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な食品が値上がりする中で、米価は値下がりしている。設備投資もしたので、支払いが大変。(60代及び70代:男性・・・複数から同様の意見) ・旅行者の減に加えて、仕入れ価格の上昇で厳しい状況である。宿泊料金など価格設定が難しい。(60代:男性) ・産直の会員も減少して品揃えも大変。店当番も年々負担になっている。野菜づくりなど、働く意欲も下がっているこの頃。(70代:女性) ・息子家族は大変そうだ。嫁もパートの時間が減らされたと言っていた。(70代:男性) ・コロナ禍、学校の閉鎖により親が休業しなければならず収入の減少を感じた。(放課後子ども教室、児童館等が学校閉鎖とともに利用できなくなったため。)(30代及び40代:女性) ・たとえ収入が減らなくても、支出が増えているので家計は厳しくなっている。(40代:女性) ・自然農法に特化して就農し、販売ルートも独自でもっているの で、特に経済的な影響はない。むしろ、それを目的にした顧客開拓 につながっている。(40代:男性) ・自営業で従業員がいない(少ない)ため、たとえ収入源でも気が 楽である。(60代:女性) ・年金が減ってもそれなりに生きていく。野菜や花、畑仕事があっ て良かった。(70代女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の幸せを維持、向上させるためにももっと働く。(50代:男性) ・農村の知恵を活かして、生活する。(50イ代:女性) ・若い世代に住んでもらうためには仕事場、雇用が必要である。(40代:女性) ・(若い人に) 起業する人を増やすためにも、職場体験など(社会)教育が必要である。(40代:男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第2回目（軽米町）	<ul style="list-style-type: none"> ・色々値上がりする中で米だけが下がっている。農家さんの大変さを目の当たりにしている。(40代:男性) ・(経営者として) 今、福祉関連の補助などはあるが、賃金を上げるのに躊躇う。高齢者が減るであろう未来を考えると、今給料を上げてから下げるとするのは怖い。(50代:男性) ・20年前から時給は上がっていない。この年代になると家庭菜園などで楽しみながらの生活になる。お金ではない、やりがいを見つけていく。(60代:女性) ・まさに子育て真っ最中。収入は変わらないのに支出が増えているので、今は苦しい。(40代:女性) ・多少収入は減っている。高齢化、コロナ等理由は様々だと思うが、お馴染みさんが来てくれているので嬉しいし、悲観していない。(60代:女性) ・檀家減少もあって、寺院運営（修繕）が厳しい。影響が出ている。(40代:男性) ・転職や実家へ戻ることを選んでの今なので、収入減は必然。(40代:男性) ・介護関係は、就労、特に若者の就労が少ない。低賃金と言われているので避けられている？ 志をもって就職しても定着しない。(50代:男性) ・職業柄、特に影響はない。木材物価が上昇しても、給料に反映されない。逆も同じ。(50代:男性) ・会社が価格転嫁することに消極的だし、働いている人も安定志向で転職等が少ない。(40代:男性) ・年金も下がる。それなりにと考えていくしかない。(60代:女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金にとらわれないように考えている。(50代:男性) ・提携している農家への支援の仕組みを行政等と一緒に考えていく。(40代:男性) ・魅力ある仕事場づくり、雇用が必要である。(50代:男性) ・町内だけではなく、近隣市町への通勤が多いので、広域的に仕事の種類を考えていく必要がある。(40代:男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第3回目（栗石町）	<ul style="list-style-type: none"> ・下がっているのではなく、ない。(60代：女性) ・収入がないのに支出が多い。(60代：女性) ・実務とストレスがある。(30代：女性) ・選択して仕事を減らしているが、戻すのは難しい。(30代：女性) ・視点を変えれば幸福に気付く。(20代：女性) ・大赤字だが、挽回を目指している。(60代：女性) ・自己投資をしている。好きな仕事ができるよう、自分をコントロールしたい。(20代：女性) ・フリーランスで、(コロナ禍) バランスが崩れる。(30代：女性) ・経済状況が悪いと(周りから) と言われると不安を感じる。(30代：女性) ・自分で考え、自分で解決する力が必要である。(30代：女性他1名) ・人によって給料を違うものを感じると思う。(20代：女性) ・家族で暮らしていても孤独感を感じる人もいる。(30代：女性) ・広い選択肢が必要である。(20代：女性) ・残業が当たり前。自分が好きなことの価値が大事である。(20代：女性) ・自分で組み立てる、教育が必要である。(30代：女性) ・教育・社会を見直す。子ども、高齢者のことを考える。今の日本を作ってきた高齢者が軽視されている。(60代：女性) ・島国がグローバル化を急いでいて心配である。(60代：女性) ・収入は全盛期の半分になったが、支出は多くなった。(40代：男性) ・リーマンショック・震災・コロナと(外的要因で) 落とされている。(40代：男性) ・日本で1番寂しいことは、世界を知らないこと。日本の初任給は上がっていない。閉じこもっている。(30代：男性) ・仕事の認知度が低い。(評価が低い。)(40代：男性) ・収入は減になるが、選択したもの。週2日は農業をすることにした。(30代：男性) ・「選択」に共感する。勤め人にならないという選択、フリーランス。(40代：男性) ・(働くこと、生きていくことなど) 泳ぎながら、泳ぎ方を学んでいる。(40代：男性) ・その人、幸福を感じる能力のある人であれば。(40代：男性) ・選択して生きてきた気はしていないのだが、選択してきたのかもしれない。(30代：男性) ・資本主義のルールに乗れない、乗らない自分がいる。(40代：男性) ・戦争、ガソリンの高騰・物価の上昇など、個人の力ではどうしようもできない状況もある。(30代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業の認知度向上のため情報発信していく。(40代：男性) ・移住を考えている人に地域の情報をしっかり伝えていきたい。(40代：男性) ・今は先行投資の時期と思って地道に活動していく。(60代：女性) ・ToDo リストをやめる。(20代：女性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第4回目（釜石市）	<ul style="list-style-type: none"> ・あればそれに越したことはないが、十分だと思う。(20代：女性) ・子どもが大きくなり、パートからフルタイムになって収入は上がった。(30代：女性) ・現状満足しているが、使い方が悪いかもしれない。(30代：男性) ・税金が安くなるといい。税金が何に使われているのか不安。(30代：男性) ・民間から転職しての公務員。安定はある。(30代：男性) ・飲食店の求人によく見かけるが、就職しても定着しない様子。仕事内容も含めて厳しいのかな。(30代：女性) ・震災後は、いろいろと仕事に活気はあった。今は落ち着いて全体的に静か。(30代：男性) ・子育て時期、特に女性にとっての就活は大変。求人情報と現実が違う。(30代：女性) ・(自分は構わないが) 地元には買い物したくなる店が少ない。経済が回らないと自分たちにも回ってこない。(30代：男性) ・多くを求めない性格。責任をもって働くが、業務内容を選べるのではない(50代：男性) ・以前はいた強烈なリーダーが、今はいない。地域の勢いがいない感じ。(30代：男性) ・収入は得られているが、今の仕事は選択したものではない。現状の中で自分ができることをしていかなければいけないと思う。(30代：男性) ・何事もバランス。収入とやりがいのバランスは難しい(30代：男性) ・以前の仕事は自分がやりたいことだった。地元に戻るには、職業の選択が少ない。(20代：女性) ・選択したわけではなく、家業を継いだだけなので考えたことがなかった。(30代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたポジションで精一杯仕事する。(50代：男性) ・起業も含めたキャリア教育の仕組み、機会を考えていく。(30代：男性) ・雇用する側の意識改革も大事。(30代：女性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第5回目（大船渡市）	<ul style="list-style-type: none"> ・本業以外に副業を2つしているの、同年代の中では多いかもしれない。(20代：女性) ・今のところ、稼ぐ術が他にあるので安心している。(20代：男性) ・業界でかなり違う。第一次産業など搾取されやすいのではないかと。(20代：男性) ・社会情勢が影響している。給料が上がらないのに電気やガスなどが値上がりしている。(20代：男性) ・収入が安くなることを理解しての地方移住。家賃など東京と比較すると安いので実感が無い。(20代：男性) ・いろいろな選択肢（職業や稼ぎ方等）があるのに、その情報にアクセスしにくい環境にあるのではないかと。(20代：男性) ・将来を考えると安心できない。働きながらの子育てとかを想像すると働く場として、選択肢が多く、生活しやすい都会を選ぶかもしれない。(20代：女性) ・ITネイティブなので、あまり深刻に思っていないが、その環境に慣れていない人や知らない人は不利益で損している。(30代：男性) ・産業上の構造で若者の給料が上がらない仕組みだと思う。(20代：男性) ・工場のパート勤務の人は、勤務時間短縮されていた。生きるための副業と自分のスキルを活かしたい副業では違う。(20代：男性) ・やりたい仕事を選んでの今は若いからできるのかも。家族をもち、子育てや介護などの年代になったときには今のような形態でいいのかわり不安はある。(20代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のスキルアップと副業をすすめていく。(20代：男性) ・秋に転職する予定。(20代：男性) ・起業やスキルアップ、人とつながるための場づくりや情報アクセス環境の提供をしていく。(20代：女性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第6回目（宮古市）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時職員から会計年度職員となり、若干上昇したと思う。(40代：女性) ・年金生活者なので、下がっている。でも、物価は上がるし、本当に厳しい。(70代：女性) ・商店街の組合員減少で組合員負担金も減少。伴って給料の予算が減る。時間調整して働くようになっているが、ここまでは仕事、ここからはボランティアという感じで割り切っている。実家も商売をしていたので、商店街の活動は大事だと思っている。(60代：女性) ・震災や台風などいつ災害が起きるか不安なので、お金を使うことが怖い。(60代：女性) ・フリーランスでお稽古ごと教室を運営している知人は、コロナの外出控え（伴う収入不足による遊興費支出控えも？）もあって、受講者減による収入減があると言っている。(40代：女性) ・今は特に困っていないが、これから子育てや介護などダブルケアになった時に現状で大丈夫なのか不安を感じる。(40代：女性) ・将来に備え、夫婦で定年後も働いているのだが貯金できていない。(60代：女性) ・近所の方から、「生活保護費も下がった。毎日、夕方にお弁当を買って、ご飯を半分翌日に残しておかゆにして食べている。ガス代など考えて料理することをやめた」という話を聞いた。支出を抑えることでしのいでいる感じがする。(60代：女性) ・宮古は、賃金ベースの割に不動産（賃貸など）が高い。(60代：女性 他1名) ・成人した子どもたちは、それぞれの生活があり、世話を頼むのは難しい。(60代：女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まってくる困り事の声を市や議員等に伝えること、意見交換する場が必要だと思う。(60代：女性) ・年金生活者、どう頑張っても収入が上がる見込みはない。節約していくしかない。(70代：女性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第7回目（滝沢市）	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税や物価の上昇で支出が増えている。(70代：男性) ・コロナ拡大を機に夫が転職した。給料は上がったが、勤務時間も増えたので果たしていいのかと思うときもあるが、子育て中なので収入増はありがたい。(40代：女性) ・自営業なので、コロナ拡大後は結構厳しい。しかも子育て時代の借金の返済も相まって大変である。(50代：女性) ・一昨年に大病を患い、医療費が嵩んでいる。収入が決まっている中で支出増。(70代：男性) ・働き方を変えたくて、収入減になる覚悟で転職した。現状に満足している。(50代：女性) ・今は困っていないが、子どもが中学高校と成長していくことを考えると、資金確保が大事になってくる。(30代：女性) ・市町村によって子育て支援（控除や補助など）に不公平感がある。(30代：女性他1名) ・給料は現状維持。でも支出がじわじわ増えているので生活レベルの維持ができるか不安。(40代：女性) ・コロナ感染拡大はダイレクトに収入に影響している。仕事が予定通りに進まない。(50代：女性) ・介護保険料も医療費負担も増えるのに、年金は減る。(70代：女性) ・米農家、米価が下落している。保証はあっても一時的なもの。(70代：男性) ・子どもが大きくなったので、パートからフルタイム（臨時）になったので収入増。でもスポ少などで支出も増えて、結局トントンかマイナスになっている。(40代：女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康一番。家族だけではなく、地域で健康増進を促す取り組みをしたい。(70代：男性) ・「足るを知る」、節約しながら生きていく。(70代：女性) ・個人ができる事は節約。資産運用はリスクがある。(40代：女性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第8回目（陸前高田市）	<ul style="list-style-type: none"> ・移住する前は学生で、こちらに来てから初めて就職したので、比較対象がない。低下したのかどうかわからない。(20代：男性) ・移住前よりも支出が増えた。(20代：男性) ・収入は減ったが支出も減ったので、余裕はある。(20代：女性) ・お金の余裕が精神的余裕につながっている。(20代：女性) ・都会と比較して、賃金が低い割に物価は大して変わらない。物価は意外と高いかも。(30代：女性) ・食費は移住前と変わらない。(20代：女性) ・日用品の買い物は十分事足りている。この辺りの店で売っていないものも、インターネットさえ使えばどこにいても買えるので、不便は感じない。(20代：男性) ・岩手県は他県と比較して収入が低く、支出が多いという調査結果があると新聞で見たことがある。(20代：男性) ・都会は何をするのにもお金がかかる。こちらでは、お金がなくてもなんとかなりそうという印象がある。(20代：女性) ・収入は低いけれど、ウニがおすそ分けで回ってきたり食べているものの質は高い。(20代：男性) ・商売（お金を稼ぐ）ということがあまり上手ではないのではないかと。おすそ分け文化があるので、商売につながらないということはあるのかもしれない。(20代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住する前は知らなかったことばかり。もっと魅力を発信していった方が良い。(20代：女性) ・ちゃんと商売につなげた方が良い。(20代：男性)

【感想】

<p>第1回 (遠野市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カルテのうち、設問1から10個選ぶのが大変であった。(70代:男性) ・耕作放棄地対策、空き家対策について検討していかなければ。(60代:男性) ・新型コロナウイルス感染症の流行はあくまできっかけである。これまで感じていた『担い手不足』『関係性の希薄化』『高齢者の生活支援』の課題が見えてきた。(60代:女性) ・いろいろあるが、移住してくる若者もいるので嬉しい。(70代:女性)
<p>第2回 (軽米町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の多くはネガティブ。たとえ若者が新しいことを提案しても「無理だ」「できない」って発言に意欲をそがれる。(40代:男性) ・役場の駐車場など空間を有効活用できればよい。(40代:男性) ・高校生など若者の考え、気持ちを聞きたい。(50代:男性) ・今までの関係性をしっかりつなぎたい。(60代:女性)
<p>第3回 (雫石町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会変化とともに変わっていくことに対応できるようになりたい。(40代:男性) ・地域の中での役割は必要。(30代:男性) ・改めて幸福ってなんだろうと考えられて良かった。(20代:女性) ・県が県民(地域?)のことを考えているってわかったのは良かった。(60代:女性)
<p>第4回 (釜石市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育って大切だと思う。職業や地元企業のことを学ぶ機会が必要だと思う。(30代:男性ほか1名) ・なんとなく関わってきた地域の中で、自分が取り組んでいる活動を見直すことができた。(30代:男性) ・選択できること、選択することって大事。(30代:女性) ・誰かの幸せを考える時、自分自身のことをきちんと考えていきたい。(20代:女性) ・安心して暮らせる地域がいい。とりあえず、道路などインフラ整備。(30代:男性) ・楽しいワークだった。子ども達と一緒に考えてみたい。(30代:女性)
<p>第5回 (大船渡市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カルテの最初の設問の項目の変更はできないのかな?(20代:男性) ・地域コミュニティという概念がなかったと気が付いた。また、子育て世代等と設定がなく、自分のテリトリー以外のことを知らない自分がいた。目を向けられるようになりたい。(20代:女性) ・ハーバード大学の追跡調査でもあったが、人間の幸福には「いい人間関係」が大事。(20代:男性) ・せっかく住んでいるのだから、適度に良い距離感で繋がりたい。(20代:男性)
<p>第6回 (宮古市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立派な災害公営住宅。でも住んでいる高齢者の生活は、本当に大変である。(70代:女性) ・今は生活することに困っていないが、年を重ねて動けなくなった時の不安がある。宮古市内は介護施設も少ないので、金銭的に裕福でないと自宅で介護という話になるのではないか。(60代:女性) ・生きるためにはお金がかかる。(70代:女性)

<p>第7回 (滝沢市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃、この地域が嫌いだった。でも、今ここに住んでいて幸せだと思っている。(30代：女性) ・憧れの田舎暮らし、小岩井を選んで転居した。地域に幻滅はしていない。(70代：男性) ・子育てしやすい地域だと思う。住みやすい。(40代：女性) ・参加者が発言してくれて良かった。自治会としてもこういう機会が大事だと思う。(50代：女性)
<p>第8回 (陸前高田市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重視度より実感値が高かった。今、自分は幸せなんだなと思った。(20代：女性) ・疲れていたのか、幸福宣言の発表内容で、ほぼ全員が幸福のために自分の心の余裕を求めている。(20代：女性) ・設問Iについて、設問の中に当てはまるものがなくて無理やり10個選んだので、思っていたのと違う結果が出たのかもしれない。(20代：女性)